

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）



薩摩川内市及び伊佐市のネギで、ネギハモグリバエ（別系統）の発生が認められ、特殊報第3号を発表したので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第3号

1 病害虫名 ネギハモグリバエ（別系統）*Liriomyza chinensis* Kato

2 発生作物名 ネギ *Allium fistulosum* L.（ユリ科）

3 発生確認状況及び被害状況

令和2年7月上旬、薩摩川内市の露地栽培根深ネギで、ハモグリバエ類により葉全体が白化する被害が認められた（図1）。従来のネギハモグリバエ被害とは異なり、1葉に無数の食害痕（潜行痕）があり（図2）、その上部が枯死していた。食害痕の周辺には白色の産卵痕が多数認められた（図3）。

農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門 野菜病害虫・機能解析研究領域 虫害ユニットに本虫の同定を依頼した結果、遺伝子解析により、従来から発生しているネギハモグリバエの系統（以下A系統）と異なる、本虫の別系統（以下B系統）と同定された。

南さつま市、南九州市、伊佐市、鹿屋市の根深ネギを対象としたほ場調査及び本県各地域振興局へ聞き取り調査を行ったところ、伊佐市の根深ネギほ場においても本種の被害が確認された（11月18日現在）。

4 本系統の特徴

（1）形態

成虫の体長は約2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡褐色（図6）。幼虫は淡黄色のうじ虫状で（図4）、成長すると体長約4mmに達する。蛹は体長約3mmの褐色俵状である。A系統及びB系統を形態で識別することは困難である。

（2）寄主植物

A系統はネギの他、タマネギ、ニラ等のユリ科ネギ属植物を加害するが、現在のところ、B系統はネギのみで確認されている。

（3）被害

A系統と同様、食害痕は不規則な白線状となるが、A系統と比較して1葉あたりに多くの幼虫が寄生し、食害することから、多数の白色食害痕により葉の白化症状を呈する。

(4) 生 態

A系統と同様，成虫は葉の組織内に産卵し，孵化幼虫は葉の内部を潜行して葉肉を食害する。成長した幼虫は葉から脱出し，地表または土中で蛹化する。

(5) 他県での発生確認状況

B系統の発生は，国内で平成28年に京都府で初めて確認され，平成31年（令和元年）に京都府，茨城県，富山県，千葉県，長野県，埼玉県，新潟県，栃木県，三重県，滋賀県，大阪府，愛知県，令和2年に東京都，佐賀県，岐阜県，鳥取県，兵庫県，岩手県，秋田県，福島県の計20都府県で特殊報が発出されている。

5 防除対策

- (1) 発生を認めたら，系統にかかわらずネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある登録薬剤による初期防除を徹底する。
- (2) 作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。
- (3) 本虫の寄生した被害葉及び収穫残渣をほ場に残すと，次の作型や周辺作物の発生源となるので，地上部に残らないよう処分を徹底する。

6 参考文献等

- (1) 徳丸晋・上杉龍士(2019):植物防疫第73巻第9号43～45.
- (2) 佐賀県農業技術防除センター 病害虫発生予察特殊報 第2号（2020年2月6日）



図1 葉の白化状況



図2 集中加害されたネギの葉



図3 ネギ葉上の産卵痕



図4 潜行痕内の幼虫



図5 ネギ葉上のネギハモグリバエ
(本系統確認ほ場)



図6 ネギハモグリバエ成虫
(京都府病虫害防除所原図)